弘前れんが倉庫美術館 HIROSAKI 弘前れんが倉庫美術館 MUSEUM OF CONTEMPORARY

2022年9月29日

Press Release

【開幕】弘前れんが倉庫美術館 2022 年度 展覧会「秋冬プログラム]

「もしもし、奈良さんの展覧会はできませんか?」 奈良美智展弘前 2002-2006 ドキュメント展

会期:2022年9月17日(土) - 2023年3月21日(火・祝)

会場:弘前れんが倉庫美術館(青森県弘前市)



本展展示風景 撮影:長谷川正之 Artwork: ©Yoshitomo Nara

(…) みんなががんばってオープンした直後 は花が咲いてお花見をする感じ。そして、花 は必ず散るように、会期があるから展覧会も 終わる。でも、終わった後には、種とかいろ んなものをみんなが落とすんじゃないかな。 (…) 花が咲く背景には、土に還って養分と なったたくさんの葉っぱがある。

―奈良美智の言葉より (『A to Z 奈良美智 + グラフ』フォイル、 2006年)

弘前れんが倉庫美術館は、2022年9月17日(土)から2023年3月21日(火・祝)まで、【「もしもし、 奈良さんの展覧会はできませんか? | 奈良美智展弘前 2002-2006 ドキュメント展】を開催します。 本展では、美術館になる前の煉瓦倉庫で開催された、弘前市出身の現代美術家・奈良美智(1959-) による三度の展覧会の軌跡を、さまざまな資料、写真や映像で振り返ります。

1988年に渡独した奈良は、海外での活動も積極的に行う中で2000年に帰国します。翌年から国内初 の本格的な個展「I DON'T MIND, IF YOU FORGET ME.」が全国を巡回し、2002年には煉瓦倉庫を会 場として開催されました。これを契機として、続く二つの展覧会「From the Depth of My Drawer」 (2005年)「YOSHITOMO NARA + graf A to Z」(2006年)が煉瓦倉庫で開かれました。

タイトル「もしもし、奈良さんの展覧会はできませんか?」は、当時の煉瓦倉庫のオーナー・吉井 千代子(吉井酒造株式会社社長)が、奈良の作品に強く惹かれ、自分の倉庫で展示をしたいとギャ ラリーに問い合わせたというエピソードにちなんでいます。この一本の電話が、吉井と奈良の出会 いにつながり、煉瓦倉庫での奈良美智展が実現しました。

弘前での最初の奈良美智展から20年を迎える本年、煉瓦倉庫と地域との関係性において重要な意味 を持つ、この三度の展覧会にあらためて光をあてます。当時の印刷物やグッズ、記録映像の資料、 展覧会準備の様子や展示風景を撮影した写真家の永野雅子と細川葉子による写真で構成します。 また、過去に出展された奈良美智の作品も一部展示します。弘前での「奈良美智展」というひとつ の事例から、地域のアート、そしてそこに関わる人々について、考えをめぐらせるための場の創出 を目指します。

広報に関するお問い合わせ

弘前れんが倉庫美術館 広報担当: 大澤、石川

TEL: 0172-32-8950 FAX: 0172-55-5982 E-mail: press@hirosaki-moca.jp 〒036-8188 青森県弘前市吉野町 2-1

HIROSAKI MUSEUM OF CONTEMPORARY ART

展覧会のみどころ

1. 当時の貴重なドキュメント資料を中心に、三度の展覧会を多角的に振り返る

当時の関係者へのインタビュー映像のほか、市民の協力により集まった印刷物やグッズなどの資料を展示します。三度の展覧会準備から完成までの軌跡を紹介するとともに、煉瓦倉庫の持ち主であった吉井千代子と奈良の出会いや、展覧会運営を担ったボランティアの存在など、異なる切り口から三度の展覧会を振り返ります。

2. 展覧会が生まれるエネルギーを伝える写真展示

「奈良美智展弘前」準備中の会場風景、展覧会づくりに参加した人々や当時の街の様子を撮影した、永野雅子と細川葉子による写真を紹介します。共通する対象をそれぞれの視点で捉えた写真群は、当時の建物や展示の詳細な記録を伝えるドキュメント資料としての役割を持つだけでなく、展覧会の完成というひとつの目標の下に集結した人々の熱気や、当時の煉瓦倉庫がまとっていた場のエネルギーを伝えます。本展の会場構成には、2005年、2006年の展示のグラフィックを手がけたデザイナーの山本誠が参加します。

3. 弘前での展覧会で出展された奈良美智の作品を一部展示

過去の弘前での展覧会に出展された奈良美智作品の一部を展示します。煉瓦倉庫の記憶を継承しつつ美術館へと生まれ変わった展示空間で、絵画、ドローイング、立体作品などを紹介します。また、奈良が故郷の弘前で暮らしていた時代に親しんだ書籍やレコードもあわせて展示します。

4. 展覧会と並走する参加型プロジェクトの展開

「弘前エクスチェンジ#05」では、「奈良美智展」の記憶をたどり、演劇を作ることであらたな考察を試みる「もしもし演劇部」や、三度の展覧会をきっかけに街や人にもたらされた変化を探る「小さな起こりリサーチプロジェクト」など市民参加型のプログラムや関連する展示を行います。三度の「奈良美智展」が地域に蒔いた創造性に光をあてます。

※「弘前エクスチェンジ」とは、弘前ゆかりのアーティスト、クリエイター、研究者らに注目し、異なる視点が交差・交換される場を生み出すことで、新たなアプローチで地域性の考察、創造的魅力の再発見に繋がることを目指すプログラムです。



本展展示風景 撮影:長谷川正之

HIROSAKI MUSEUM OF CONTEMPORARY ART

主な展示内容

一本の電話から [展示室 1]

市民の協力を得て集まった「奈良美智展弘前」の資料を 9 つの切り口から紹介します。当時制作されたポスターやチラシ、グッズのほか、関わっていた人たちが大切に保管していた奈良のドローイングなどを展示します。当時の展覧会の実現に向けて携わった 4 人の関係者へのインタビュー映像も紹介します。

のこすことは未来をつくること [展示室 2・3]

写真家の永野雅子と細川葉子が撮影した「奈良美智展弘前」の会場風景や街の様子の写真を展示します。「永野雅子写真小屋」「細川葉子写真小屋」では、展示室内に設けられた小屋の中で、それぞれが選んだ写真を小さな個展形式で紹介します。

吹き抜けの大空間では、二人の写真家がとらえた当時の記録写真をスライドショー形式で紹介するほか、「YOSHITOMO NARA + graf A to Z」の展覧会バナーも掲示。今回の展覧会のために集まったボランティアが制作した布の装飾が会場を彩ります。また、2002 年に出品された絵画作品《Milky Lake》を再び展示するほか、奈良のドローイング作品を第一期、第二期に分けて小屋の中で展示します。

[奈良美智 ドローイング作品の展示期間]

第一期:2022 年 9 月 17 日 (土) - 12 月 25 日 (日) 第二期:2023 年 1 月 2 日 (月) - 3 月 21 日 (火・祝)

奈良美智と弘前での時間 [展示室 5]

奈良が弘前で過ごした時代に親しみ、その感性を形づくった書籍とレコードを展示します。奈良がセレクトした30冊の書籍と、300枚以上のレコードが壁面に並びます。また展示室内に設けられた「NARAライブラリー」では書籍を自由に手にとってご覧いただけるほか、展示室内各所では奈良が選曲した音楽が流れます。

動き続ける場へ [展示室 4]

三度の「奈良美智展」をリサーチする「小さな起こりリサーチプロジェクト」の活動や、若い世代が短い演劇を創作する「もしもし演劇部」など、会期中に展開する「弘前エクスチェンジ」の活動を写真やテキストで紹介します。また、「YOSHITOMO NARA + graf A to Z」(2006年)のボランティア参加をきっかけとして、アーティストの道へと進んだ佐々木怜央(1990年青森県黒石市生まれ)の作品展示を通して、「奈良美智展弘前」の開催から次世代に伝播した創造性の形を紹介します。



奈良美智《A to Z Memorial Dog》2007年 ©Yoshitomo Nara Photo: Naoya Hatakeyama

奈良美智《A to Z Memorial Dog》2007 年 (当館コレクション作品)

「YOSHITOMO NARA + graf A to Z」に関わってくれた市民への感謝の気持ちとして制作されました。2007年に弘前市に寄贈されたのち、煉瓦倉庫前の土淵川吉野町緑地に設置され、街のシンボルとして親しまれてきました。煉瓦倉庫が美術館として生まれ変わる際に、美術館のエントランスに展示され、来館者を出迎えています。

弘前れんが倉庫美術館 HIROSAKI MŰŠĔŰM OF CONTEMPORARY

弘前エクスチェンジ #05 「ナラヒロ」

「ナラヒロ」は、「奈良美智展弘前」の当時のボランティアの間での略称です。展覧会「もしもし、 奈良さんの展覧会はできませんか?」と並走する形で展開する本プロジェクトは、地域の人々が持つ 当時の記憶や思い出をリサーチ/記録することを試みます。ワークショップや展示など、それぞれ異 なるアウトプットの手法で、三度の「奈良美智展弘前」と、街や人々とのかかわりから生まれた創造 性を考察します。

「ナラヒロ|写真展示

三度の「奈良美智展」にまつわる写真および、奈良が市民ボラン ティアのために制作した作品《A to Z Memorial Dog》の写真を本 展にあわせて一般募集しました。300枚以上集まった写真の中か ら、その一部を展示室入口に掲示します。

小さな起こりリサーチプロジェクト

三度の「奈良美智展」が街や個人に与えた影響や変化、展覧会と 街との関わりから生まれた創造性についてリサーチするプロジェ クトが進行しています。本展会期中、展示室内やウェブ上でその 成果を発表します。

もしもし演劇部

三度の「奈良美智展」についての短い演劇を創作し、上演しま す。10代から20代の参加者たちがリサーチをし、感じたことを演 劇でアウトプットすることで、あらたな視点から三度の展覧会を 捉えなおす試みです。本展会期中のワークショップを経て、オム ニバス形式の演劇作品を作り、2022年12月18日(日)にドラマリ ーディング(朗読劇)形式で発表します。

○ワークショップ講師

鎌田龍(劇団「ひろさき演人」主宰)

太田歩(ドラマナビコーディネーター、弘前市岩木地区地域おこし協力隊)

○「もしもし演劇部」参加募集

詳細 | https://www.hirosaki-moca.jp/exchange/05-narahiro/moshien/



「ナラヒロ」写真展示 本展展示風景 撮影:長谷川正之



小さな起こりリサーチプロジェクト 活動の様子



佐々木怜央 「雪の様に降り積もる/2006年の記憶から」 展示風景 (一部) 撮影:長谷川正之

展示:佐々木怜央 雪の様に降り積もる/2006年の記憶から

煉瓦倉庫での「奈良美智展」に関わった多くの人々が、さまざまな分野で現在の活動を展開していま す。佐々木怜央は、高校2年生の時、「奈良美智展弘前」にボランティアとして参加し、アートを通し て大勢の人とつながる可能性を感じたといいます。本展示では、ガラス素材を用いて制作する、作家 の現在の表現のかたちを紹介します。

佐々木怜央 | 1990年青森県黒石市生まれ。東京藝術大学大学院修了後、株式会社ミナ勤務。2018年 より主にガラス素材を用いて作家活動を開始し、同年、弘前市立百石町展示館で個展を開催。

・ 弘前れんが倉庫美術館 HIROSAKI MUSEUM OF CONTEMPORARY

永野雅子 NAGANO Masako

1971年、埼玉県生まれ。同地在住。青山学院女子短期大学卒業。 雑誌、広告、web、書籍等でポートレートを中心に撮影している。 2004年「This is a time of... S.M.L. yoshitomo nara+graf」を青幻 舎より出版。



Photo: asaco suzuki

細川葉子 HOSOKAWA Hako

1974年、福井県生まれ。東京都在住。1999年、日本大学芸術学部 写真学科卒業。2004年より写真家として活動をはじめる。雑誌、 広告のポートレートや静物、映画のスチール、展覧会のカタログ など多岐に渡って撮影を手がける。



Photo: Hiroyo Katsube

奈良美智 NARA Yoshitomo

1959年、青森県弘前市生まれ。栃木県在住。1987年、愛知県立芸 術大学大学院修士課程修了。1988年渡独、国立デュッセルドルフ 芸術アカデミー入学。修了後、ケルン在住を経て、2000年帰国。 1990年代後半以降からヨーロッパ、アメリカ、日本、そしてアジ アの各地のさまざまな場所で発表を続ける。見つめ返すような瞳 の人物像が印象的な絵画、日々生み出されるドローイング作品の ほか、木、FRP、陶、ブロンズなどの素材を使用した立体作品や 小屋のインスタレーションでも知られる。



Photo:RYOICHI KAWAJIRI Artwork: ©Yoshitomo Nara

関連プログラム

オープニングトーク

出演 | 永野雅子(写真家)、細川葉子(写真家)、山本誠(デザイナー)

日時 | 2022年9月17日(土) 14:00-15:30

会場|スタジオ B

料金|参加無料

定員 | 30名

※本イベントは終了しました

学芸スタッフによるギャラリーツアー

日程 | 本展会期中 下記の日曜日

2022年9月25日、10月9日·30日、11月13日·27日、12月11日·25日 2023年1月8日·22日、2月5日·19日、3月5日·19日

時間 | 11:00 - 30 分程度

料金 | 参加無料 (要当日観覧券)

定員 | 10名

申込み|不要(当日先着順)

集合場所 | 1 階受付前

本展会場でのライブイベント

奈良美智がアルバムジャケットのアートワークを描き下ろしたG.Yokoと、弘前を拠点に活動するジョナゴールドのライブを吹き抜けの展示室で開催します。

ライブ「Yoko の恩返し」

出演 | G. Yoko、山口洋

日時 | 2022年10月1日(土)18:30 開場/19:00 開演

会場|展示室

料金 | 3000円

定員 | 50 名 (事前予約優先)

申込み | 予約サイト https://221001live.peatix.com/ 電話 0172-32-8950

ライブ「Walk on brick road」

出演|ジョナゴールド

日時 | 2022年12月3日(土)18:30 開場/19:00 開演

会場|展示室

予約受付開始 | 2022年11月5日(土)予定

※料金や予約方法等、詳細は後日当館ウェブサイトで発表します

もしもし演劇部の舞台セット制作中!?みんなで工作ワークショップ

「もしもし演劇部」のメンバーが展示から得たインスピレーションをもとに 12 月の朗読劇上演で使用する舞台セットを作ります。同会場では、身近な素材を使った工作ワークショップを開催。子どもから大人まで気軽に参加できます。

日時 | 2022年10月15日(土)午前の部:11:00-11:45/午後の部:13:00-14:00

会場|展示室

料金 | 無料 (要当日観覧券)

申込み | 不要 どなたでも参加できます

上映会『NARA:奈良美智との旅の記録』

奈良とクリエイティブユニットのgrafは、ソウル、横浜、ニューヨーク、大阪、ロンドン、バンコクなど世界各地を巡り、架空の街"A to Z"を作りあげました。2006年に弘前で開催された展覧会の準備から開催に至るまでの500日間をカメラに収めたドキュメンタリーを上映します。

監督: 坂部康二/製作年: 2007年/配給: 東北新社/上映時間: 93分



©2006 Hako Hosokawa

日時 | 2022年10月21日(金)19:00

2022年10月22日(土)10:00/15:00/19:00

※開場は各回30分前

会場|スタジオ B

料金 | 一般 1,000 円、H-MOCA メンバーズ・学生 800 円、高校生以下無料

定員 | 各回 20 名 (事前予約優先)

申込み | 予約サイト https://221021-22hmoca.peatix.com/ 電話 0172-32-8950

もしもし演劇部 朗読劇上演

「もしもし演劇部」の参加者がワークショップを経て創作したオムニバス形式の演劇作品をドラマリーディング(朗読劇)形式で上演します。

日程 | 2022年12月18日(日)

会場|展示室

※詳細は後日当館ウェブサイトで発表します

クロージングイベント

奈良美智による DJ イベントを開催します。 日程 | 2023 年 3 月 21 日(火・祝) ※詳細は 2023 年 1 月中旬頃、当館ウェブサイトで発表します

展覧会ブックレット

作品解説や展示風景写真を収録した展覧会ガイドブックを会期中に発売予定です。

開催概要

| 展覧会名: 「もしもし、奈良さんの展覧会はできませんか?」

奈良美智展弘前 2002-2006 ドキュメント展

| 会期: 2022年9月17日(土) - 2023年3月21日(火・祝)

| 開館時間: 9:00-17:00 (入館は閉館の 30 分前まで)

|休館日: 火曜日

※ただし、3月21日 (火・祝) は開館

※12月26日(月)-1月1日(日)は休館

| 観覧料 [税込]: -般 1300円(1200円) 大学生・専門学校生 1000円(900円)

※()内は20名様以上の団体料金

※ 以下の方は無料

高校生以下の方/弘前市内の留学生の方/満 65 歳以上の弘前市民の方

ひろさき多子家族応援パスポートをご持参の方/障がいのある方と付添の方1名

| 主催: 弘前れんが倉庫美術館

|特別協賛: スターツコーポレーション株式会社

|協賛: 株式会社大林組

|協力: 奈良美智、NPO法人 harappa

|後援: 東奥日報社、デーリー東北新聞社、陸奥新報社、青森放送、青森テレビ、

青森朝日放送、エフエム青森、FM アップルウェーブ、弘前市教育委員会

| 一般問合せ: TEL: 0172-32-8950

|アクセス: JR 弘前駅より

- 弘南バス・土手町循環 100 円バス「蓬莱橋」下車 徒歩 約5分

- 徒歩約20分

- タクシー 約7分

| ウェブサイト: http://www.hirosaki-moca.jp

SNS: Instagram: @hirosaki_moca

Twitter: @hirosaki_moca

Facebook: @hirosaki.moca

弘前れんが倉庫美術館

HIROSAKI MUSEUM OF CONTEMPORARY ART

2022年9月29日

E-MAIL: press@hirosaki-moca.jp または FAX: 0172-55-5982 宛

弘前れんが倉庫美術館(青森県弘前市)

「もしもし、奈良さんの展覧会はできませんか?」

奈良美智展弘前 2002-2006 ドキュメント展

会期:2022年9月17日(土) - 2023年3月21日(火・祝)

広報画像申請書

▼貴媒体についてお知らせください。

媒体名		貴社名				
一ご担当者		所属部署				
ご住所 〒						
電話番号	FAX 番号			E-MAIL		
掲載・放映の予定が決まっていたらお	知らせください。	年	月	日		
読者プレゼントのご希望 □希望する 組 名様 (2022 年 12 月 31 日迄 掲載対象) □希望しない *画像 1 点以上ご掲載の場合、本展の招待券 10 枚まで提供します。 / 美術館までの交通費は自己負担のご案内をお願いします。						

▼希望される画像の番号に「○」で印をつけてください

広報画像にはすべて以下キャプション・クレジットを併記してください。 画像提供は事前に原稿を確認させていただける場合に限ります。

 $\lceil 1 \rceil$



「もしもし、奈良さんの展覧会はできま せんか? | 展示風景

撮影:長谷川正之

Artwork: ©Yoshitomo Nara

[4]



From the Depth of My Drawer 準備中の様子(2005年)

撮影:永野雅子 Artwork: ©Yoshitomo Nara

[2]



「もしもし、奈良さんの展覧会はできま

せんか?」展示風景 撮影:長谷川正之

[5]



YOSHITOMO NARA + graf A to Z 準備中の様子(2006年)

撮影:細川葉子 Artwork: ©Yoshitomo Nara

[3]



[I DON'T MIND, IF YOU FORGET ME.] 展示風景 (2002年)

撮影:永野雅子 Artwork: ©Yoshitomo Nara

[6]



奈良美智《A to Z Memorial Dog》2007年 ©Yoshitomo Nara

Photo: Naoya Hatakeyama

<広報画像、取扱に関する規定>

- ●広報画像の使用は展覧会をご紹介いただく場合のみとさせていただきます。
- ●広報画像をご紹介いただく場合、指定のキャプションとクレジットを必ずご記載ください。
- ●全図で使用してください。トリミング、変形、部分使用、文字のせは原則禁止となっております。
- ●掲載記事・番組内容については、基本情報確認のため、可能な範囲でゲラ刷り・原稿の段階で広報までメールまたは FAX でお送りください。

広報に関するお問い合わせ

弘前れんが倉庫美術館 広報担当:大澤、石川(公)

TEL: 0172-32-8950 FAX: 0172-55-5982 E-mail: press@hirosaki-moca.jp 〒036-8188 青森県弘前市吉野町 2-1